P1-021

医療的ケアを必要とする子どもをもつ母親がとらえた在宅移行における看護師の関わり

奥野 祐希[1]、村端 真由美[2]、杉本 陽子[3]

[1]三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター、
[2]三重大学　医学部看護学科　母性・小児看護学講座、
[3]鈴鹿医療科学大学　看護部　小児看護学

【はじめに】

近年、医療の進歩により、医療的ケアが必要な子どもは増加しており、子どもと家族を支える社会資源の不足と家族の受け入れ不良が問題として挙げられている。そのため、医療者は家族の不安を把握し、家族が在宅療養を受け入れられるよう医療者の関わりが求められている。しかし、NICUに勤務する医療従事者を対象とした先行研究では、在宅移行支援に関する知識不足だけでなく、家族との関わりについても困難感をかかえていることが明らかとなっている。このことから、本研究では、医療的ケアを必要とする子どもの母親が、在宅移行における看護師の関わりをどのようにとらえたかを明らかにすることを目的に調査を行った。

【方法】

A病院のNICUから小児病棟での母子入院を経て退院した、人工呼吸器や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子どもの母親5名を対象に半構造化面接を行った。NICU入院中と小児病棟母子入院中のそれぞれの時期で看護師から在宅移行に向けてどのような関わりがあったかと退院後に受けている支援について質問し、逐語録を作成後、コード化・カテゴリー化を行った。なお、本研究は研究代表者所属機関の研究倫理委員会の承認を得て、対象者に同意を得て実施した。

【結果】

分析の結果、NICU入院中に母親がとらえた看護師の関わりは、54のコード、9のサブカテゴリー、3の［カテゴリー］が抽出された。小児病棟母子入院中では、38のコード、7のサブカテゴリー、3の［カテゴリー］が抽出された。退院後において母親がとらえた支援は、56のコード、10のサブカテゴリー、3の［カテゴリー］が抽出された。母親がとらえた看護師の関わりは、NICU入院中では、［安心できる環境作り］［子どもと親をつなぐ存在］［医療的ケアの導入と援助］であった。小児病棟母子入院中においては、［看護師からの積極的な声かけ］［不足している情報の補足］［親子を見守る姿勢］であった。退院後において母親がとらえた支援は、［子どもと家族に寄り添った看護の継続］［多職種の専門性を活かしたサポート体制の構築］［再入院時の家族支援］であった。

【考察】

母親がとらえた看護師の関わりから、看護師は、家族の思いに寄り添いながら医療的ケアの導入と援助を行うことが必要であるといえる。さらに、退院後の生活を見据えた助言を行い、多職種と連携して子どもと家族を支える支援体制を作ることが必要であると考えられる。

P1-022

医療的ケアの必要な小児の保育所への受け入れに関する調査

金泉 志保美[1]、阿久澤 智恵子[2]、青柳 千春[3]、牧野 孝俊[1]、佐光 恵子[1]

[1]群馬大学大学院　保健学研究科、
[2]埼玉医科大学　保健医療学部、
[3]高崎健康福祉大学　保健医療学部

【目的】

日常的に医療的ケアを必要とする子どもが家庭や地域で生活する上で、就園・就学は大きな課題となっている。特に未就学児の、保育所等への入園は非常に困難な現状がある。そこで、保育所に勤務する看護職を対象として、医療的ケアの必要な小児の保育所への受け入れが困難な要因、および受け入れるために整えられるべき条件について明らかにすることを目的に調査を行った。

【方法】

全国保育園保健師看護師連絡会会員の看護職870名を対象に、郵送法による自記式質問紙調査を実施し、統計ソフトSPSS22.0J for Windowsを用いて分析した。群馬大学医学部疫学研究に関する倫理審査委員会および全国保育園保健師看護師連絡会倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】

192名より調査票の返送があり、有効回答の191名を分析対象とした。これまでに、医療的ケアの必要な小児を受け入れた経験があったのは41名（21.5%）で、医療的ケアの内容は、導尿13件、経管栄養11件、気管切開管理6件等であった。現在、医療的ケアの必要な子どもの入園希望があった場合、受け入れることは、「可能」3.7%、「条件が整えば可能」60.2%、「不可能」34.0%、無回答2.1%であった。どのような条件が整えば可能であるかとの問いに対しては、複数回答で「緊急時の受け入れ医療機関が明確」(92.1%)、「園の職員や管理者からの理解・協力が得られる」(84.3%)、「医療的ケアの技術について直接指導を受けられる」(78.3%）等の回答割合が高かった。また、受け入れが不可能な理由は、複数回答で、「施設の環境の整備が不十分」(73.8%)、「人員不足」(64.6%)、「行政の支援体制が不十分」(55.4%）等の回答割合が高かった。医療的ケアの実技演習、医療的ケアの実施にかかわる制度や法的根拠等の研修を求める割合が高かった。

【考察】

医療的ケアの必要な小児の受け入れの可否については、「条件が整えば可能」との回答が6割を占めたことから、看護職は受け入れの必要性を感じているものの、現行の制度や人員配置の中では、受け入れに課題が多く、かなり困難を伴うと考えていることが明らかとなった。医療機関との連携や人員配置、他の職員や管理者の理解等、行政の支援体制の整備を求める声が高く、今後は、医療的ケアの必要な子どもの保育所への受け入れに向けた体制整備の検討や、保育所看護職を対象とした研修プログラムの検討を行っていく必要がある。

Presented by Medical*Online